

トカラ列島近海の地震活動の再検測による震源分布

(2025年7月2日~7月4日：有感地震のうち初動を精度良く検出可能な地震のみ・130個)

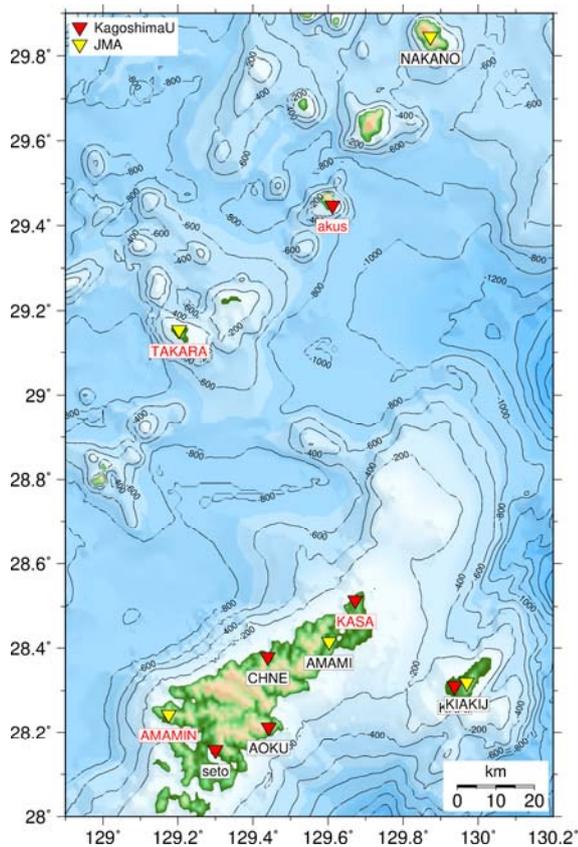


図1 地震観測点配置 (JMA, KagoshimaU)

このうち鹿児島大学の akus, KASA, 気象庁の TAKARA, AMAMI の4観測点 (観測点名が赤字) について、P・S波検測の組み合わせを固定して震源を再決定した。

有感地震のうち、直前の地震との重なりが無い、初動の検測精度が良い地震のみを対象とした。

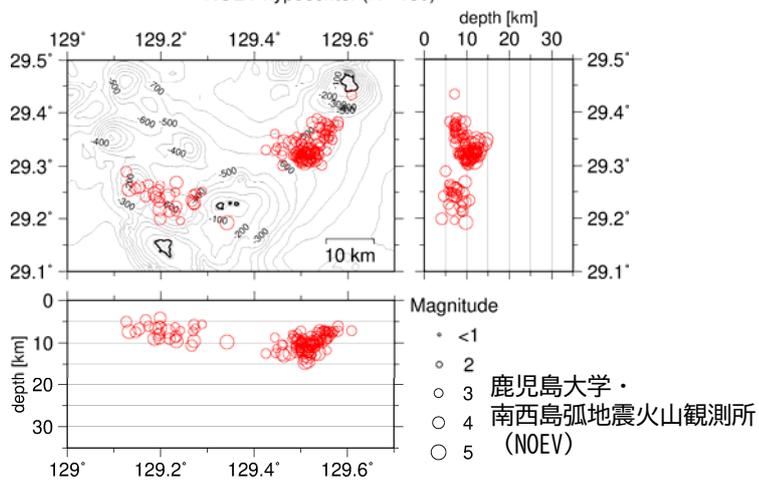
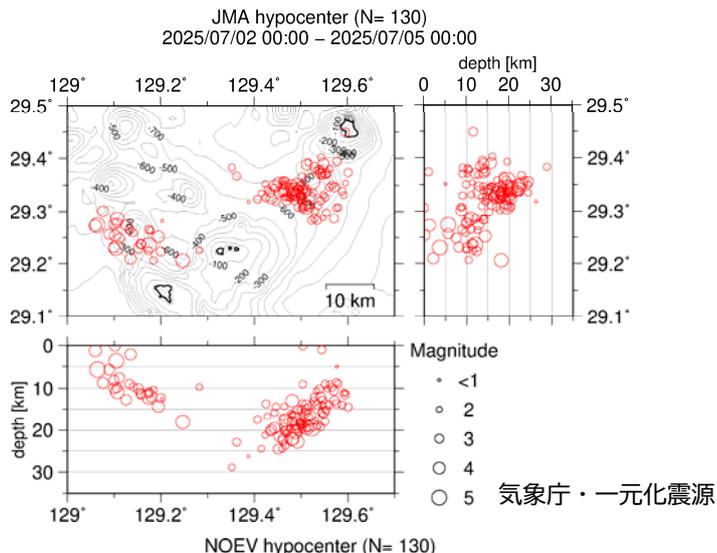


図2 一元化震源の分布 (上) と再検測震源の分布 (下)

NOEVの震源決定には角田・他(1991)の1次元速度構造を適用した。

Comparison of hypocenters between JMA & NOEV (N= 105)

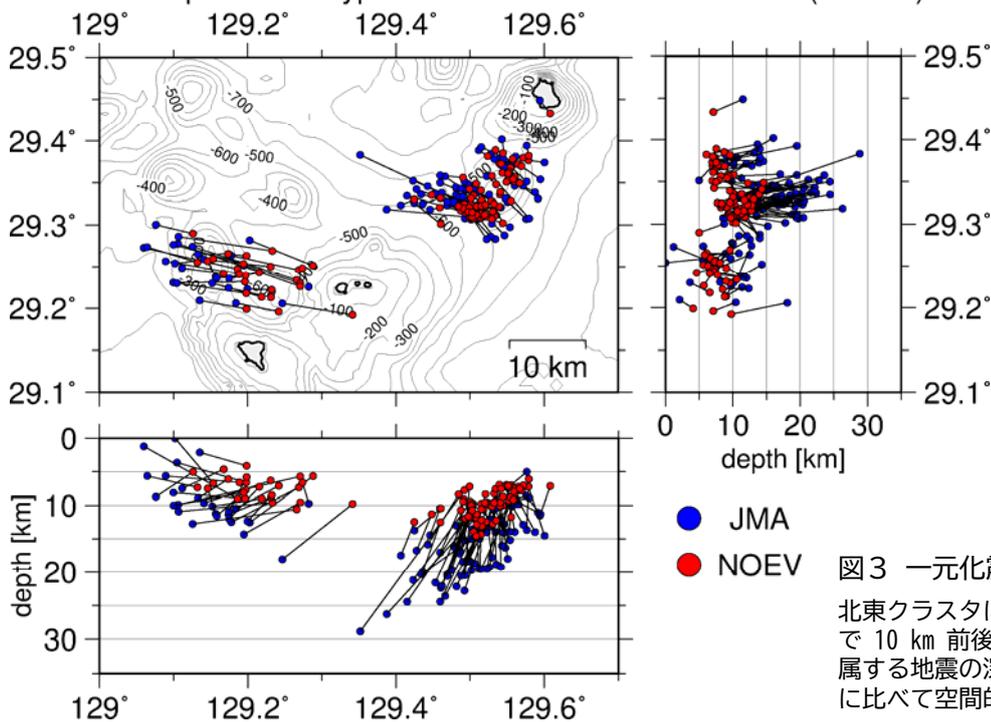


図3 一元化震源と再検測震源の比較

北東クラスタに属する地震の深さは 5~15 km で 10 km 前後のものが多い。南西クラスタに属する地震の深さは 4~10 km で、北東クラスタに比べて空間的なばらつきが大きい。